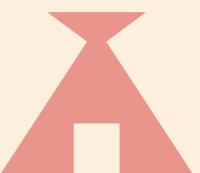
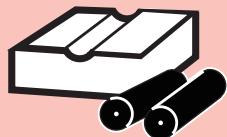


展覧会

古代 の くらし

- 旧石器時代から古墳時代 -



主催 京都府教育委員会
公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

協賛 向日市教育委員会

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、発掘調査で出土した遺構や遺物を通じて埋蔵文化財への興味や関心を府民のみなさまにもっていただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが共催で開催しています。

例年は、直近の府内の発掘調査成果をとりあげた速報展を実施していますが、5年に一度は、府内の発掘調査資料をもとにテーマ展示を行っています。今回は、旧石器時代から古墳時代を対象に、「古代のくらし」を紹介する展示を企画しました。古墳時代までの人びとのくらしが変化する様子を10のテーマで紹介しています。

展示にあたっては、より分かりやすく、親しみやすくなるように心がけました。いにしえの世界をお楽しみください。

結びにあたり、今回の展覧会を協賛いただいた向日市教育委員会をはじめ、さまざまご協力を賜った関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和7年10月

京都府教育委員会

公益財団法人
京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡　例

1. 本図録は、展覧会「古代のくらしー旧石器時代から古墳時代ー」(向日市文化資料館：令和7年10月25日（土）～11月30日（日）)の展示図録です。
2. 展示資料は、主催者及び府内各機関がこれまでの発掘調査で得た資料と資料館に寄託された資料です。
3. 本図録に掲載した資料は、展示品のすべてではありません。また、展示の都合により展示品と図録掲載品が異なる場合があります。
4. 本展覧会は、令和7年度国宝・重要文化財等保存・活用事業費補助金（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費）を受けて実施しています。
5. 本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関から御指導・御協力をいただきました。

(順不同・敬称略) 京丹後市教育委員会、与謝野町教育委員会、宮津市教育委員会、舞鶴市、福知山市教育委員会、南丹市立文化博物館、亀岡市、京都市考古資料館、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、向日市教育委員会、長岡京市教育委員会、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター、久御山町教育委員会、城陽市教育委員会、木津川市教育委員会、京丹後市芦原区、京都府立丹後郷土資料館、京都府立山城郷土資料館

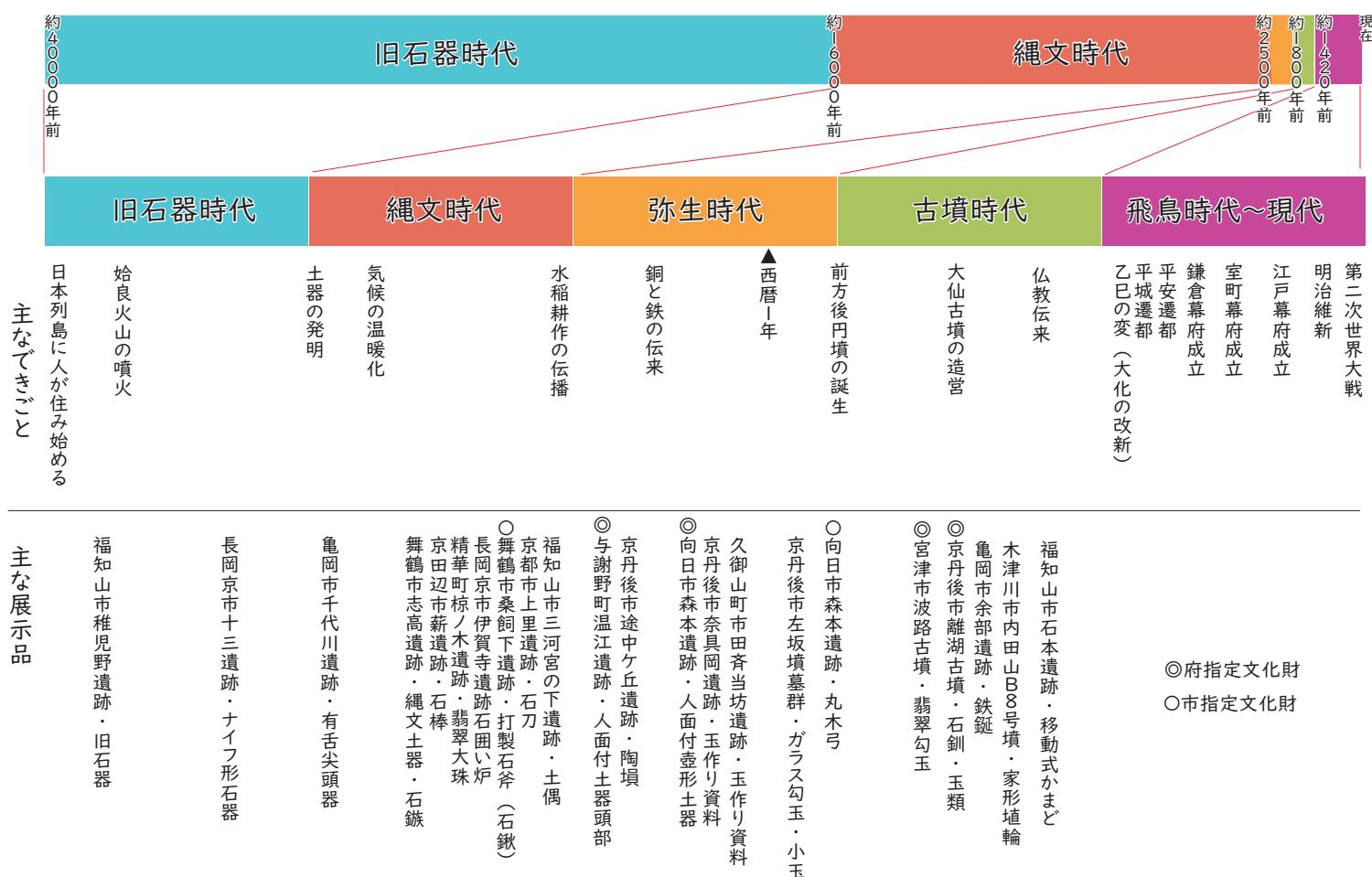
6. 本図録の掲載写真は、主催者撮影のものほかは、上記の機関から提供を受けたものです。

プロローグ

今回の展示は、旧石器時代から古墳時代の人びとが、どのように暮らしをしていたかを考えるてがかりになることを目指しています。日本で本格的に文字が使用されるのは、遣隋使などを通じて中国の制度を学び始める飛鳥時代からで、乙巳の変^{いっし}にはじまる大化の革新を経て律令国家が誕生します。それ以前のくらしをうかがうことのできる文字資料は、魏志倭人伝などの中国の歴史書と、神話などを伝える古事記・日本書紀以外にはありません。そのため発掘調査などによる考古学の成果が大きな役割を果たします。

今回の展示では、この時代のくらしを「住む」「食べる」「狩る」「栽培」「つくる」「道具」「運ぶ」「装う」「音楽」「祈る」の10のテーマごとにその変化をたどるように紹介してしています。狩りや漁、採集を生業に移動を繰り返した旧石器時代、くらしの道具に土器が加わり、やがて定住生活を始めて栽培を始めた縄文時代、^{すいとう}水稻耕作を開始しやがて地域ごとにクニが誕生した弥生時代、大和王権のもと東北南部から九州まで前方後円墳が築かれ、国としてのまとまりができ始めた古墳時代と、長い時間をかけて大きく変化していく人びとのくらしを思い描いてみましょう。

主なできごとと主な展示品





人びとの住まい

人々はどのような住居に暮らしていたのでしょうか。時代と共に変化する住まいの様子を見てみましょう。

旧石器時代

旧石器時代の人びとは、たびたび移動を繰り返したようで、穴を掘って柱を立てる住まいを造った形跡がうかがえません。府内最古の遺跡である福知山市稚児野遺跡では、ナイフ形石器や局部磨製石斧などが集中して出土する地点が環状に分布しており、石器の集中部には、簡易なテントのような施設があったと想定できます。



キャンプサイトの跡を写したように環状に出土した石器群

福知山市稚児野遺跡（後期旧石器時代）

出土した約3万年前の石器



縄文時代

縄文時代では舞鶴市志高遺跡や木津川市例幣遺跡の竪穴住居からは多数の石鏃と剥片が出土しており、石器作りも住居の中で行われたようです。住居の床には炉が営まれますが、長岡京市伊賀寺遺跡では東日本の影響を受けた石囲い炉が見つかっています。



復元された屋根に土をかぶせた竪穴住居
岩手県御所野遺跡（縄文時代中期）



石囲い炉をもつ方形竪穴住居
長岡京市伊賀寺遺跡（縄文時代中期）

弥生時代

かんごう
たかゆか
弥生時代になると、環濠で囲まれたムラの中には、竪穴住居に加えて平地式建物や高床倉庫が営まれました。円形の竪穴住居が営まれることが多く、住居の真ん中に炉が造られました。



床に炉とベッド状の高まりをもつ竪穴住居
まつだ
大山崎町松田遺跡（弥生時代後期）



復元された竪穴住居
愛知県朝日遺跡（弥生時代中期）

古墳時代

古墳時代になると、方形の竪穴住居に居住するようになり、5世紀になると中央の炉に代わって壁際にかまどが造られるようになります。古墳の上に設置された家形埴輪は、豪族の屋敷を写したものと思われます。



かまどをもつ方形竪穴住居がならぶ集落跡
いけじり
亀岡市池尻遺跡（古墳時代後期）

古墳の上に設置された
家形埴輪



古墳時代の家を
想像してみよう

うちだやま
木津川市内田山B8号墳
木津川市教育委員会蔵



つかもと
長岡京市塚本古墳

住まいの内側

住まいの中には、木でできた道具（木器・木製品）をはじめ、石でできた道具（石器・石製品）、土でできた道具（土器など）が備えられていたはずですが、木器・木製品は、腐ったり燃えたりして残っていません。ここでは、調査で多数出土する日常使われた土器などを紹介します。なお、土器はくらしの変化とともに形を変えるので年代のものさしにもなっています。

縄文時代

縄文土器



さまざまなかたちの深鉢 舞鶴市志高遺跡（縄文時代前期）舞鶴市蔵

弥生時代

弥生土器



壺、甕、鉢、高杯などから構成される土器 亀岡市時塚遺跡（弥生時代中期）

古式土師器



大和王権のもと地方色のなくなった土器
城陽市下水主遺跡（古墳時代前期）

古墳時代



洪水の土砂に埋もれていた机（案）
京丹後市古殿遺跡（古墳時代前期）

土師器・須恵器



朝鮮半島から伝わった窯窓で焼かれた須恵器が流通した頃の土器
宮津市難波野遺跡（古墳時代中期）

住まいの外側

住まいの外側には、食料を蓄えたりする貯蔵穴や倉庫があり、住空間を区切る（ムラを囲う）溝などが設けられました。その外側には、耕作地のほか、水汲み場やクルミやクリ、トチなどのあく抜き施設、狩りや食料を採取する森が広がり、魚をとる川や海が広がっていました。

縄文時代

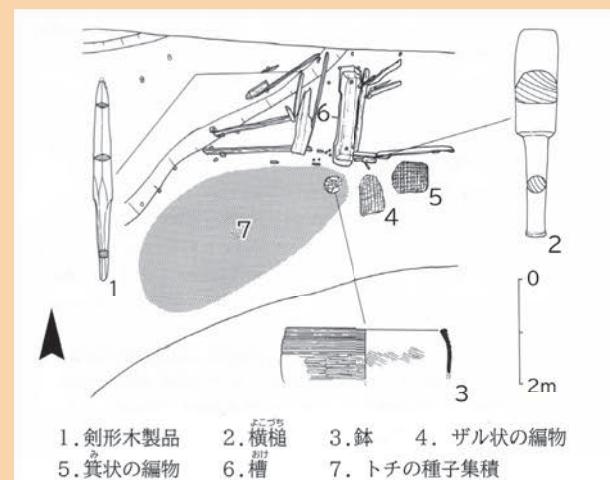


小川に設置された水場遺構

みずしじんじやひがし

城陽市水主神社東遺跡（縄文時代後・晚期）

弥生時代



トチの実などのあく抜きをした水さらし場

なぐだに

京丹後市奈具谷遺跡（弥生時代中期）



はしごが設置されたまま見つかった貯蔵穴

あつえ

与謝野町温江遺跡（弥生時代後期）



食べる

食べる

食べることは、命と身体を維持するだけでなく、空腹を満たす喜びや家族や集団のきずなを深める行為です。縄文人は、シイやトチの実のアク抜きを行い、でんぶん質をとりました。一方、水稻耕作が大陸から北部九州に伝わった弥生時代は、米を食べる機会が増えましたが、ヒエやアワも食べていたことが知られています。

縄文時代前期の京丹後市松ヶ崎遺跡まつがさきでは、シカやタヌキの骨、オニグルミやトチの実、イモ類などの種子とともに、ヒラメやタイ、フグ、クエなどの魚骨が出土しています。



海辺の集落でみつかった魚の骨

京丹後市松ヶ崎遺跡（縄文時代）

弥生時代前期の壺の底には、しばしば稻もみの圧痕が残されており、米を食べていたことがわかります。後期の住居から同じ大きさの小さな鉢が複数出土することがあり、一人用の土器が出現したようです。



焼失した竪穴住居と残された一人用の土器 木津川市上人ヶ平遺跡（弥生時代後期）

弥生時代



木津川市教育委員会蔵



古墳の造り出しから出土したアケビと笊を模した土製品
城陽市久津川車塚古墳（古墳時代中期） 城陽市教育委員会蔵

首長の死を弔った古墳の上では、食物形土製品を使った祭祀行為が行われることもありました。ごく稀な例になりますが、死者とともに副葬された土器の中に死者に捧げた貝などが残されていることがあります。古墳時代後半期の移動式のかまど（韓窯）では、甕とともに飯が用いられており、蒸す調理方法もあつたようです。

古墳時代



死者に供えられた土器から出土した蛤
京丹後市有明5号墳（古墳時代後期）

写真提供
京丹後市教育委員会



移動式のかまど 京丹後市アバタ遺跡（古墳時代後期）
丹後郷土資料館蔵

飯、甕、かまどの使い方がわかるセット
福知山市石本遺跡（古墳時代後期）

福知山市教育委員会蔵



狩る



ナイフ形石器



旧石器・縄文・弥生各時代の槍先

上左：福知山市稚児野遺跡（旧石器時代・約3万年前）

上右：長岡市十三遺跡（旧石器時代・約2万年前）

下左：京丹後市佐屋利遺跡、亀岡市千代川遺跡（縄文時代草創期）

下右：長岡市雲宮遺跡（弥生時代前期）

狩る・獲る

古代の人びとは食糧を求め、野や山で狩りを行い、海や川で漁を行っていました。どのような道具を使っていたのでしょうか。

槍

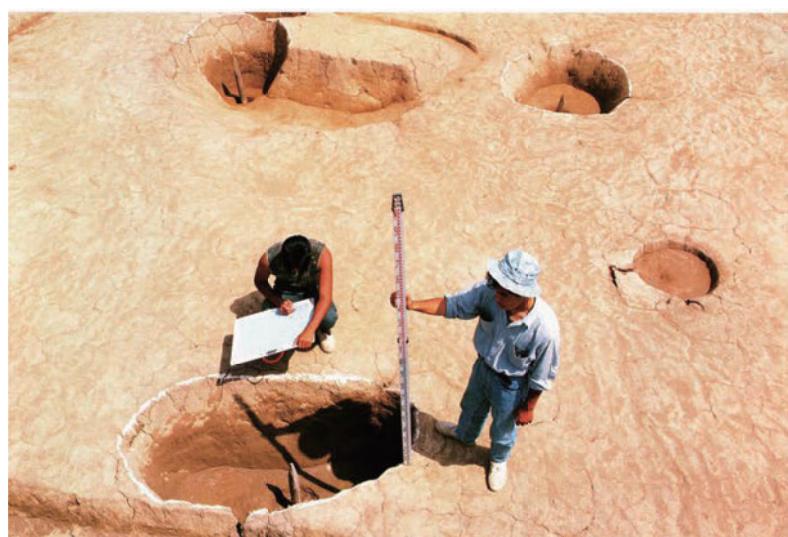
狩りをする

旧石器時代や縄文時代は狩りのイメージが強くあると思いますが、槍先はとても小さく大形の動物をしとめるのは困難だったようで、陥し穴などへの追い込み猟の役割が大きかったようです。縄文時代から使われる弓は、猟の効果が大きかったようで、前期の遺跡からはとても多くの石鏃が出土しています。

米作りが伝わった弥生時代にも猟は盛んだったようで、石鏃が多数使われ、シカやイノシシの骨が見つかっています。弥生時代の終わり頃から、石鏃に代わって銅鏃や鉄鏃が使われるようになりました。

大きな古墳からは多数の鉄鏃が出土しますが、武力を示すだけでなく、シカ猟などにも使われたことが想像されます。

弓と矢



杭が底に立てられた複数の陥し穴（杭は復元）
南丹市天若遺跡（縄文時代）



多数作られた縄文時代の石鏃 舞鶴市蔵
舞鶴市志高遺跡（縄文時代前期）

魚を獲る

海岸部や川沿いの集落跡からは、漁撈の網につけた石の錘が出土しています。府内では骨で作った釣り針は出土してませんが、浮きに使ったと思われる軽石が出土することから釣りもしていたかもしれません。



漁具



上下を打ち欠いた礫石錘 舞鶴市蔵
舞鶴市志高遺跡（縄文時代前期）



川や湖沼で使われたタモ網の枠と
舟を漕ぐ櫂
城陽市下水主遺跡（古墳時代前期）



網掛け部分を削り込んだ石錘
京丹後市上野遺跡（弥生時代後期～古墳時代）

○半分に折れた丸木弓と銅鏃
向日市森本遺跡（弥生時代後期）

写真提供 向日市教育委員会

解体する

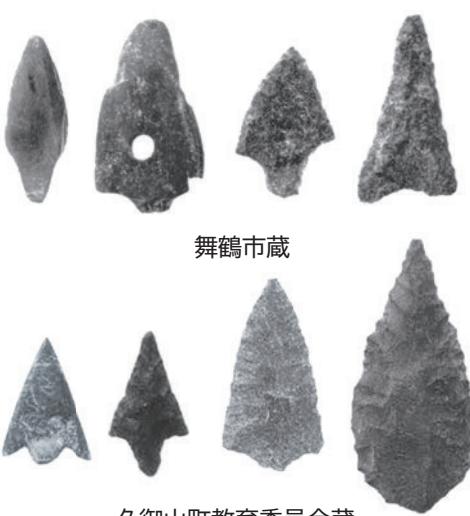
旧石器時代の削器や縄文時代の石匙など動物解体用の石器もみられます。



動物を解体した削器（左）と搔器（右）
福知山市稚児野遺跡



個人蔵



舞鶴市蔵

久御山町教育委員会蔵

府北部と府南部の弥生時代中期の石鏃

上：舞鶴市志高遺跡、下：久御山町市田齊当坊遺跡



京丹後市平遺跡

亀岡市千代川遺跡

動物を解体した万能石器・石匙



植物を栽培する

作物の栽培はいつから始まったのでしょうか。

木を栽培する

縄文時代の人びとにとって、森のどんぐりやトチの実は大切な食糧源でした。石皿と磨石で粉にして、あくを抜き丸めて焼いていました。由良川下流の自然堤防上に位置する桑飼下遺跡（後期）から出土したクルミは、前期の遺跡から出土するクルミに較べて大きく、栽培していたと思われます。



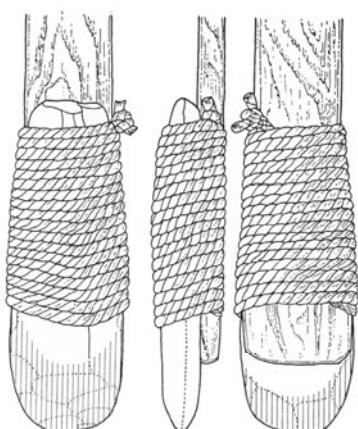
○粒のそろった大きなクルミの実
舞鶴市桑飼下遺跡（縄文時代後期） 舞鶴市蔵



舞鶴市蔵

根菜を栽培した？

桑飼下遺跡では、先端が磨滅した土掘り具（石鋤）と考えられる打製石斧が 1,000 点ほど出土しており、根菜類などの畑作が想定されています。



石鋤の装着想定図
(桑飼下遺跡報告書から転載)

ドングリなどをすりつぶした縄文時代と弥生時代の石皿と磨石
左：伊賀寺遺跡（縄文時代中・後期）、右：志高遺跡（弥生時代中期）



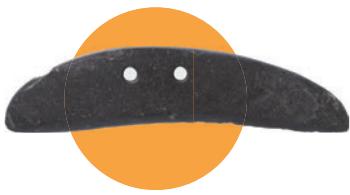
○自然堤防上で用いられた
縄文時代の土掘り具
舞鶴市桑飼下遺跡（縄文時代後期）
舞鶴市蔵



自然堤防上で用いられた
弥生時代の土掘り具
舞鶴市志高遺跡（弥生時代中期）
舞鶴市蔵



小区画水田と稻株痕跡 八幡市内里八丁遺跡



刃渡り 16 cm の石製と木製の穂摘み具（石包丁・木包丁）

左：長岡京市伊賀寺遺跡、右：京丹後市アバタ遺跡



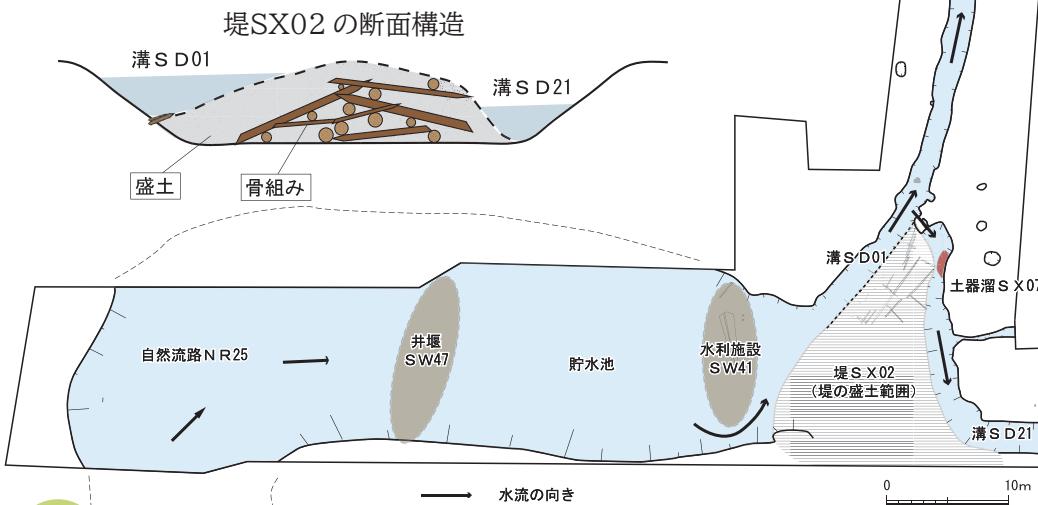
鎌として利用された 33cm の刃先に油の残る大形石包丁

京丹後市佐屋利遺跡（弥生時代中期）



鍬の泥除けと又鍬
城陽市下水主遺跡
(古墳時代前期)

土木技術の発展に伴い、古墳時代には
大規模な水利施設が築かれました。



井堰と堤を伴う大規模な水利施設 亀岡市金生寺遺跡（古墳時代前期）



水利施設 SW41 全景

稻を栽培する

弥生時代の水田遺構は、府内では京都大学構内遺跡（弥生時代前期）と内里八丁遺跡（弥生時代後期）でみつかっており、小区画の水田が営まれたことがわかります。丹後地域では、石製穂摘み具（石包丁）がほとんど出土しませんが、土器底部に残されたもみ圧痕などの存在から府内全域で水稻耕作が始まったことがわかります。石包丁が出土しない地域は全国的に見られ、石包丁に代わる収穫具があつたと考えられます。穂摘み具のほか農具として、鎌、鍬、鋤などが出土しています。

モノをつくる

人びとは生活に必要な土器や石器、木器などの多くを、自らの手で製作していました。



水晶による玉作工程
京丹後市奈具岡遺跡（弥生時代中期）

鉄製品をつくる

弥生時代中期の丹後地域では、半島や大陸からもたらされた刀子や鉄鎌などを鉄素材として再加工する小鍛冶が行われていました。古墳時代には鉄素材として鉄鋤と呼ばれる延べ板が輸入され、小鍛冶が盛んになりました。ようやく、古墳時代後期になって、国内で産出する鉄鉱石や砂鉄を原料にした製鉄（大鍛冶）が行われるようになります。



鉄素材として朝鮮半島からもたらされた鉄鋤 亀岡市蔵
亀岡市余部遺跡（古墳時代中期）

砂鉄を原料に精錬を行った製鉄炉の下部 京丹後市遠所遺跡（古墳時代後期）

玉をつくる

弥生時代中期になると拠点集落と呼ばれる大きな集落では、玉作りが行われていました。この頃には高度な技術を持つ専業集団が誕生していたようです。久御山町市田齊当坊遺跡では、碧玉を素材に管玉の生産をしています。京丹後市奈具岡遺跡では、緑色凝灰岩を素材に管玉をつくる集団と石英（水晶）を素材に水晶の勾玉や小玉をつくる集団があり、後者は鉄素材の加工も行っていたようです。



碧玉による玉作りの道具と未成品 久御山町教育委員会蔵
久御山町市田齊当坊遺跡（弥生時代中期）



道具



舞鶴市蔵

擦り溝の残る砥石
しだか
舞鶴市志高遺跡
(縄文時代前期)

人びとは、土地を開くために木を切り倒し、倒した木を加工するために固く丈夫な石の道具を使いました。弥生時代になるとより鋭利で使いやすい鉄の道具が輸入されます。砥石は刃先を鋭利に保つための必需品でした。



弥生時代になると伐採用の大型蛤刃石斧、加工用の柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、小形石斧などに機能分化しました。砥石も用途別のが存在しました。鉄がもたらされるとやりがんなや刀子などで、精巧な加工ができるようになりました。石錐は、毛皮に穴をあける以外に木に穴をあけるドリルとして使われました。

朝鮮半島からもたらされた鋳造鉄斧
おうぎだに
京丹後市扇谷遺跡 京丹後市教育委員会蔵
(弥生時代前期～中期)大木を切るには小ぶりな縄文石斧
へい
京丹後市平遺跡 (縄文時代)さまざまな用途の石斧と用途別の砥石 舞鶴市蔵
舞鶴市志高遺跡 (弥生時代中期)縄文時代と弥生時代のドリル（石錐）
舞鶴市志高遺跡（左：縄文時代前期、右：弥生時代中期） 舞鶴市蔵鉄剣装着用に造られた精巧な柄
なぐだに
京丹後市奈具谷遺跡
(弥生時代中期)加工痕跡を良く残す刀装具の未成品
あさこたにみなか
京丹後市浅後谷南遺跡
(古墳時代中期)

出土事例は少ないですが、弥生時代、古墳時代の精巧な木工品も出土しています。

製材した一枚板を加工して
たて
作られた精巧な盾
京丹後市浅後谷南遺跡
(弥生時代後期)



運び、交流する

出土品の中には、京都府内では産出しないものがしばしばみられます。これらは、古代の人びとが他地域に求めたものや、よその地域の人びとが道具をもって移動してきたことによるものです。

大海をゆく人びと

うらにゅう
舞鶴市浦入遺跡でみつかった縄文時代
前期の丸木舟は、当時としてはとても大き
なもので、物資を求めて外洋に漕ぎ出し
ていたことを教えてくれます。

縄文時代



若狭湾の入江から外海に漕ぎ出した
縄文時代最大の丸木舟

舞鶴市浦入遺跡（縄文時代前期）



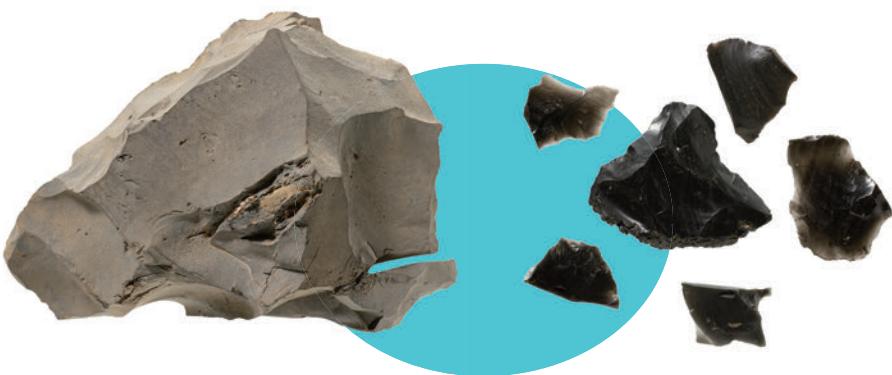
縄文時代の威信財？翡翠大珠
いしんざい むくのき たいしゅ
精華町椋ノ木遺跡
(縄文時代中・後期)

石を運ぶ

旧石器時代の石器の材料となった結晶質安山岩けっしょうしつあんさんがん（サスカイト）は、その多くが奈良県と大阪府の境にある二上山から産出したものです。縄文時代にも使われた黒曜石は、遠く隠岐の島から運ばれたものです。美しい硬玉として知られるひすい（翡翠）は、新潟県からもたらされています。



黒曜石で作られた万能ナイフ（石匙）
しだか
舞鶴市志高遺跡（縄文時代前期）



3万年以上前に遠方から運ばれた石器の石材
左：二上山のサスカイト 右：隠岐の島の黒曜石
ちここの
福知山市稚児野遺跡（後期旧石器時代）



府北部から大量に出土するガラス小玉
京丹後市左坂墳墓群（弥生時代後期）

丹後郷土
資料館蔵



朝貢の返礼？素環頭鉄刀
京丹後市左坂墳墓群
(弥生時代後期)

京丹後市教育委員会蔵



丹後の墓に供えられた河内産の大壺
京丹後市大山墳墓群（弥生時代後期）
京丹後市教育委員会蔵

渡来人の技

古墳時代になると土器生産、機織り、金属工芸、土木・建築などの諸技術が朝鮮半島からもたらされます。その担い手となった渡来人はふるさとの土器を持ち込んでいたようです。



南山城の集落から出土した韓式系土器
左：精華町森垣内遺跡、右：木津川市上狛北遺跡（古墳時代中期）



横穴式石室から出土した新羅系土器
京都市大覺寺3号墳（古墳時代後期）



半島起源の大壁建物（精華町森垣内遺跡）

装いにこめられた願い

縄文時代の人びとは、美しい装身具には、病気や怪我などの禍を避ける呪術的效果があると信じていたようです。弥生時代になるとガラスが輸入され、装飾品は身分の高さや権力をあらわす面が強くなります。古墳時代になると大きな古墳に立派な装身具をまとった人物が葬られました。金や銀を用いるようになり装身具の種類はさらに増えました。

縄文時代の装身具には、玦状耳飾りなどのように耳飾りとしたものほか、翡翠大珠をはじめとしたさまざまな垂れ飾りがみられます。中には補修のあとがたくさん見られるものもあり、とても大事にされていたことがわかります。勾玉は動物の牙に似せて強い力や繁殖力を願ったという説が有力です。



さまざまな形の垂れ飾り 舞鶴市蔵
舞鶴市志高遺跡（縄文時代前期）



蛇紋岩製の長い管玉
京丹後市平遺跡（縄文時代）



舞鶴市蔵

細く長い玦状耳飾り

舞鶴市浦入遺跡（縄文時代早期末～前期）

縄文時代

弥生時代



内陸部まで運ばれたガラス小玉
南丹市狭間墳墓群（弥生時代後期）

弥生時代になると翡翠の勾玉、碧玉・緑色凝灰岩の勾玉・管玉、水晶玉に加えて大陸からもたらされたガラス玉が出現します。この頃には呪術的要素よりもぜいたく品としての性格が強くなってきます。丹後地域で多数出土するガラス小玉はインド洋周辺やベトナム周辺などから運ばれてきたようで、首飾り、腕飾り、足飾りとして利用されました。また、ガラスや碧玉などの勾玉・管玉を組み合わせて身分の高さを示す頭飾りが作られることもありました。



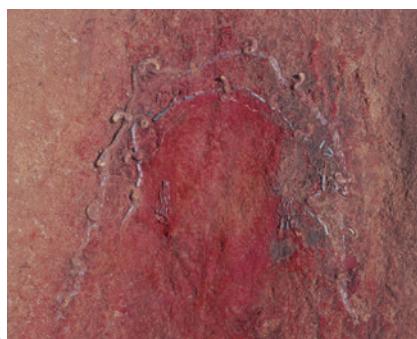
京丹後市教育委員会蔵

宮津市教育委員会蔵

丹後で作られた独特の形をしたガラス勾玉

左・中央：京丹後市左坂墳墓群（弥生時代後期）

右：宮津市桑原口遺跡（弥生時代後期）



参考：頭飾り

京丹後市赤坂今井墳墓

（弥生時代後期末）

古墳時代

古墳時代になると、大きな古墳ほど立派な装身具が出土する傾向が強くなります。翡翠、碧玉、水晶に加えて、瑪瑙、琥珀などでも作られるようになります。緑色凝灰岩などで大形の腕輪も作られました。また、金や銀などをもちいた耳環や指輪も出現し、装身具の種類はさらに増えました。



瑪瑙の勾玉と

碧玉・緑色凝灰岩の管玉からなる首飾り
城陽市芝山IV-2号墳（古墳時代前期～中期）



◎大和王権から配布された緑色凝灰岩製の腕輪（石釧）
京丹後市離湖古墳（古墳時代中期）京丹後市教育委員会蔵



◎割竹形木棺から出土した
美しい翡翠の勾玉 宮津市教育委員会蔵
宮津市波路古墳（古墳時代前期）



琥珀製の玉
山城郷土資料館蔵
城陽市長池古墳（古墳時代後期）



◎碧玉の勾玉 京丹後市教育委員会蔵
京丹後市離湖古墳（古墳時代中期）



純金製の耳環
山城郷土資料館蔵
宇治市坊主山古墳（古墳時代後期）



横穴式石室に副葬された瑪瑙勾玉と水晶切子玉
京丹後市高山3号墳（古墳時代後期）京丹後市教育委員会蔵



音楽は神聖なもの

私たちのまわりには、あらゆる空間で心を豊かにする音楽が流れています。では、古代はどうだったのでしょうか？古代では「祈り」や「まつり」など神聖な場で奏でられたと考えられています。音楽を奏することで、司祭者は、聴衆の心を魅惑したのかもしれません。



小さな穴が4つある陶埙
京丹後市途中ヶ丘遺跡
(弥生時代前期)
京丹後市教育委員会蔵



神社の裏山から見つかった流水文銅鐸
与謝野町須代遺跡（弥生時代中期）複製
丹後郷土資料館蔵



とうけん
陶埙は北部九州から丹後半島にかけての日本海側に大陸から伝來した土笛です。青銅で作られた銅鐸は、内側に舌を吊るして鳴らし、豊作を祈ったものと考えられています。次第に大型化し実用的な鐘としての役割は失われたようです。銅鐸を模した銅鐸形土製品にも、舌があり、音を奏でたのでしょうか。



舌が中に入って出土した銅鐸形土製品
長岡市谷口遺跡（弥生時代中期）

古墳時代になると新しい技術とともに伝わった楽器に、
さんかんれい三環鈴と鉄鐸などがあります。三環鈴は馬の飾り金具
でもあります。鉄鐸は、鍛冶道具と一緒に出土すること
があり、製鉄にかかわる楽器という意見があります。



一つが欠けた三環鈴
京丹後市清瀬7号墳（古墳時代中期）
京丹後市教育委員会蔵



舌が中に入って出土した鉄鐸
南丹市城谷口2号墳
(古墳時代後期) 南丹市立文化博物館蔵

演奏する

琴は弥生時代に出現します。古墳時代の埴輪には、男性が盛装して弾く姿が表現されており、古事記や日本書紀では神事に使われたとされています。実際に古墳時代の琴形木製品は導水施設周辺から出土することがあり、水のマツリでも使われていたようです。

4つの琴形木製品



ひがしつちかわ
京都市東土川遺跡
(弥生時代中・後期)



しょうがき
京丹後市正垣遺跡
(弥生時代後期)

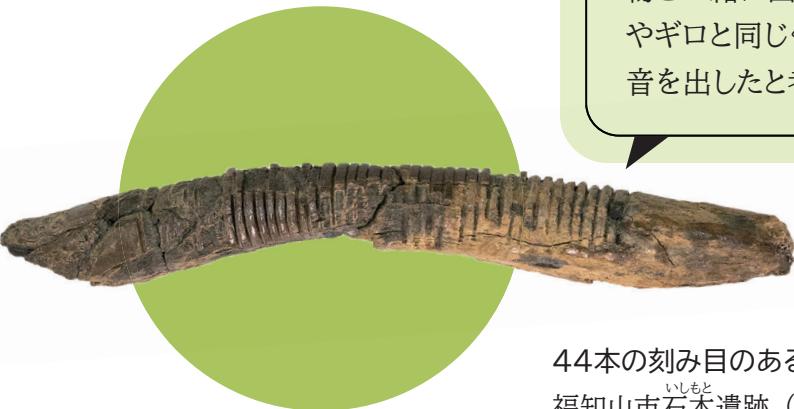


こひじり
城陽市小樋尻遺跡
(古墳時代前期)



おかざき
京都市岡崎遺跡
(古墳時代前期)
京都市考古資料館蔵

古墳時代の刻み目が彫られた鹿角製品は、形代などの祭祀遺物と一緒に出土しました。棒ささらやギロと同じく棒などでこすって音を出したと考えられています。



いしもと
44本の刻み目のある鹿角製品
福知山市石本遺跡 (古墳時代後期)
福知山市教育委員会蔵





祈りを捧げる

古代の人々はどのような場面でどのような祈りを捧げていたのでしょうか。ここでは、出土した遺物の中で、用途のわからない不思議なものを「祈り」という視点から紹介します。

子孫繁栄を祈った？

縄文時代の石棒や石冠は、その形などから子孫の繁栄を願ったものと考えられています。また、土偶は女性を表現したものが多く、安産を祈ったものといわれています。古墳時代の子持ち勾玉は、子だくさんを祈ったかのように多数の小形勾玉がついています。



巨大な石棒 京田辺市薪遺跡
(縄文時代後期)



子持ち勾玉
いこじり
亀岡市池尻遺跡(古墳時代中期)



顔だけ表現したちいさな土偶
そうごみやのした
福知山市三河宮の下遺跡(縄文時代後期)
丹後郷土資料館蔵



不思議な形の石冠
たきぎ
長岡京市友岡遺跡
(縄文時代晚期)

人面は何を願うのか

顔を表現した土器には、盛装の人物を表現したものと壺の体部に顔を表現した仮面のようなものがあり、これらも祈りにつながる道具と考えられます。



◎人面付壺形土器 山城郷土資料館蔵
向日市森本遺跡(弥生時代中期)



◎人面付き土器 あつえ
与謝野町蔵
与謝野町温江遺跡(弥生時代前期)

儀式で振るった？

縄文時代と弥生時代には、石刀や石剣など武器の形をした石製品があります。弥生土器に描かれた絵に、武器をもって舞う人を表したものがあり、邪や病魔を祓う儀式に使われたのかもしれません。



鉄剣を模した石剣 久御山町教育委員会蔵
久御山町市田斎当坊遺跡(弥生時代中期)



京都市考古資料館蔵
装飾のある石刀とない石刀
京都市上里遺跡・同烏丸御池遺跡
(縄文時代晚期)



埋納された銅剣形石剣 舞鶴市蔵
舞鶴市志高遺跡(弥生時代中期)



セミを模した土製品
かんのんじ
福知山市觀音寺遺跡
(弥生時代中期)



イノシシを模した土製品
こうたり
長岡京市神足遺跡(弥生時代中期)
長岡京市教育委員会蔵

再生を祈った？

弥生時代には虫や動物をかたどった土製品がみられます。セミの形を模した土製品はセミの羽化する姿に再生を願ったのでしょうか。また、縄文時代には多産で知られるイノシシの土製品がありますが、弥生時代にもその風習が伝えられたのでしょうか。

使用された痕跡のない道具を地中に埋納したような事例は豊穣や安全への願いでしょうか。

まとめて出土した手入れの行き届いた磨製石器
あしはら
京丹後市芦原遺跡(弥生時代中期) 芦原区蔵





KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER

SINCE1981

展覧会「古代のくらし - 旧石器時代から古墳時代 -」展示図録

発行日 令和7年10月25日

編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <https://www.kyotofu-maibun.or.jp>

2,500

